

多摩地域16自治体から参加！

その他含め、合計230名突破！ (10:30現在)

第10回までは、参加者が100名を超えることが難しかった三多摩研究集会ですが、第11回の調布市で155名、その後も武蔵野市、国立市、小平市、府中市、小金井市、そして今回の多摩市と7年連続で参加者は200名を超えました。毎年開催しますので、これからも学童クラブの多くの保護者や指導員にお声をかけながら、来年度以降もぜひ参加されるようにお願い下さい！

主催者の多摩市連協・妹尾会長の挨拶

ようこそ多摩市へいらっしゃいました。多摩市でも財政難による民間委託化の動きが進み始めました。学童クラブに子どもを預けて、私自身も成長することができましたし、学童クラブがあって本当に良かったと思っています。今日1日、じっくり勉強していきましょう。

基調報告

三多摩連協・古谷事務局長より、現在の学童保育をめぐる状況や、財政難による自治体リストラ下での民間委託化と指定管理者制度や全児童対策、そして大規模化対策、父母会活動や各市連協の強化など、午後の分科会につながる色々な課題と問題提起がありました。

全体講演の高橋ヨシエ先生に突撃インタビュー！

今回の全体会講師の高橋ヨシエ先生は、長い年、武蔵野市の学童クラブ指導員として学童クラブに長い間関わってこられた方です。講演前の先生へ突撃インタビューです。

記者：先生の子どもたちとのかかわりは、いつ頃からでしょうか？

高橋先生：23歳のころ、児童館へ勤務を始めたことが最初です。

記者：今回の講演で特にお話しされたいことは何ですか？

高橋先生：お話ししたいことは山ほどありますが、学童クラブに来る子どもたちは一人ひとりの違いを認めあいながら、毎日手をつなぎあっています。子どもたちにできることから、私たち大人も、親と指導員が、親どうしが、地域の人たちとが、手をつなぎあい、助け合い、共に育っていくことができると思います。それが平和な社会を築くためにとても大切なことです。子どもたちは大人の後姿を見ている。今日は自分の体験を含めて、このへんを考えていきたいです。

高橋先生のお話はいかがでしたか？ ぜひ感想をアンケートにご記入下さい！！